

カリキュラム区分		5カリ			シラバス区分		大学院		
科目区分	科目コード	履修時期		開講専攻	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位	
		学年	学期						
専門分野	M214	1年	後期	看護学	選択	成人看護学特論Ⅱ vanced Study on Chronic & Critical Nursing for Adult	30	2	
担当教員									
中西 純子		松井 美由紀							
関連するDPキーワード（看護学専攻）									
☐	① 看護に関する理論学習を通して経験を意味づける力を身につけている。								
☐	② 人々の健康に関連する諸現象を分析し構造化する力を身につけている。								
☐	③ 論理的に思考し他者にわかりやすく説明する力を身につけている。								
	④ 看護実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけている。								
☐	⑤ 看護実践の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法と態度を身につけている。								
	⑥ 保健医療分野に関して広い見識を身につけている。								
関連するDPキーワード（医療技術科学専攻）									
	① 臨床検査学について自ら深く学習する力を身につけている。								
	② ヒトの体の仕組みや機能を科学的に説明する力を身につけている。								
	③ 健康・病気について論理的に思考し他者に分かりやすく説明する力を身につけている。								
	④ 臨床検査実践の場においてリーダーまたは管理者、教育者として個人や集団を動かす力を身につけている。								
	⑤ 臨床検査実践の質の向上に向けて問題意識を持ち、科学的に追求していく方法・技術を身につけている。								
	⑥ 保健医療分野に関して広い見識を身につけている。								
授業目的									
慢性・急性の状況にある人の課題を解決あるいは援助するための方法やモデル／プログラムについて、そのエビデンスや開発過程、実践適用への評価を含め理解する。また、療養や治療にかかわる制度や環境についても理解を深める。									
到達目標（授業目標）									
①慢性・急性期の看護実践を導く諸概念や理論、尺度、アプローチ法及びそのエビデンスにどのようなものがあるかを説明できる。									
②担当した理論について、理論の学び方に沿って、引用・参考文献を提示しながらプレゼンテーションできる。									
③取り上げた理論について実践への適用の実際、可能性について検討し、有益性と課題（限界）について意見を述べることができる。									
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）								
1回	イントロダクション：看護実践を導くエビデンスやモデル／プログラムの開発状況について講義する。（中西）								
2回	健康課題の評価尺度の開発状況：健康課題を評価する測定用具、支援プログラムの国内外の開発状況について文献検索からみた概観について講義する。第3回以降に取り上げる理論等のプレゼンテーションの仕方についてオリエンテーションを行う。（中西）								
3回	健康課題の評価尺度・支援プログラム①：SCAQ（セルフケア）について講義する。（中西）								
4回	健康課題の評価尺度・支援プログラム②：EASEプログラムについて講義する。（中西）								
5回	健康課題への支援方法を導く理論の理解と活用①：トランスセオリティカルモデルについて担当者がプレゼンテーションを行う。（中西）								
6回	健康課題への支援方法を導く理論の理解と活用②：保健信念モデルについて担当者がプレゼンテーションを行う。（中西）								

7回	健康課題への支援方法を導く理論の理解と活用③：動機づけ面接法について担当者がプレゼンテーションを行う。（中西）									
8回	健康課題への支援方法を導く理論の理解と活用④：ソーシャルサポートについて担当者がプレゼンテーションを行う。（中西）									
9回	急性期看護におけるエビデンス開発に関する論文を選択し精読する。（松井）									
10回	慢性看護におけるエビデンス開発に関する論文を選択し精読する。（中西）									
11回	看護の発展と進化①：専門看護師等の高度実践看護師をゲストスピーカーに招き、その活動の実際と課題について講義を受ける。（中西・松井）									
12回	看護の発展と進化②：専門看護師等の高度実践看護師をゲストスピーカーに招き、その活動の実際と課題について講義を受ける。（中西・松井）									
13回	看護の発展と進化③：専門看護師等の講義を受けて課題の解決と今後の発展の可能性について検討する。（中西・松井）									
14回	慢性・急性状況にある人、及び移行期にある人が活用できる制度や資源にどのようなものがあるかを知る。（中西）									
15回	看－看連携及び多職種連携の現状の課題と在り方について検討する。（中西）									
16回										
17回										
18回										
19回										
20回										
21回										
22回										
23回										
24回										
25回										
26回										
27回										
28回										
29回										
30回										
成績評価方法及び基準										
担当プレゼンテーションの内容（50％）、各回の討論の内容(50%)トータル60点以上を合格とする。										
教科書										
参考図書等		①曾根智史他訳：健康行動と健康教育　理論、研究、実践、医学書院 ②後藤恵他訳：動機づけ面接法 実践入門 「あらゆる医療現場で応用するために」,星和書店 ③本庄恵子監修：セルフケア看護，ライフサポート社 ④岡美智代編集：行動変容をうながす看護，医学書院 ⑤牧本清子監修：推奨すべき看護実践，日本看護協会出版会								
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）										
第5回～10回では、自分の担当するモデルあるいは理論についてプレゼンテーションができるように資料を作成し事前配布しておく。他者の担当回については、事前配布された資料に目を通し討論に参加できるように準備して臨む。										
関連科目										
前科目	M213	成人看護学特論Ⅰ								
後科目	M215	成人看護学特論Ⅲ	M216	成人看護学演習	M227	特別研究Ⅰ	M228	特別研究Ⅱ		
実務家教員										
看護師（医療機関）		中西　純子								
看護師（医療機関）		松井　美由紀								
備考		成人看護学特論Ⅰの履修を前提とする。授業は2回続きで行う。但し、授業内容の順序は変更の可能性はある。								